

## 2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 11 日作成)

小委員会名	屋外空気環境小委員会	主 査 名：持田 灯 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (空気環境運営委員会)	委員長名：佐土原 聡 主 査 名：倉淵 隆
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>快適な屋外環境の形成に資することを目的、以下の 2 項目</p> <p>① 都市の風環境、汚染質拡散の乱流数値解析手法</p> <p>② 都市の換気・通風性状の定量化手法</p> <p>について、現状の技術水準を明らかにするとともに、それらを適切に利用するための技術資料を論文や刊行物として整理することを目的とする。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無	
	<p>主査：持田灯 (東北大)</p> <p>幹事：富永禎秀 (新潟工科大)</p> <p>委員：義江龍一郎 (東京工芸大)・飯塚悟 (名古屋大)・大岡龍三 (東大生研)・大黒雅之 (大成建設)・片岡浩人 (大林組)・白澤多一 (大妻女子大)・高木賢二 (鹿島建設)・土屋直也 (竹中工務店)・野津剛 (清水建設)・今野雅 (OCAEL)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市の汚染質拡散の乱流モデリング WG：CFD に基づく乱流解析手法を都市の汚染質拡散問題へ適用した場合の留意点や適用範囲を明らかにする。</li> <li>・都市の換気・通風 WG：都市の換気・通風性能を予測・制御するため、現状の技術を明らかにし、風を適切に利用するための技術資料を整備する。</li> </ul>	
2012 年度予算	150,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://www.ytomi.net/aij_okugai/">http://www.ytomi.net/aij_okugai/</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	1. 第 21 回空気シンポジウム「仮設・除染・電源—東日本大震災その後」(2012 年 9 月 11 日)：「福島原発からの放射性物質の拡散」のタイトルで小委員会での検討結果を報告 参加者数 123 名
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	本年度は、各委員の活動が中心となっており、研究としての進展は大いに認められたものの、学会委員会としての成果の集約および公表という点では十分とは言えなかった。これらの課題については、次年度以降の委員会で積極的に取り組みたい。
委員会活動の問題点 ・課題	最終的な成果のアウトプットの内容や仕様を、設計実務や行政におけるニーズ等を調査しながら具体的にしていく必要がある。

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

## 2012 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>1. 都市の汚染質拡散の乱流モデリング WG : 建物周辺の汚染質拡散に関する国際的なベンチマークテストとして知られる MUST ケースを対象として、複数の機関で計算を実施し、その成果を国際会議で発表。またその内容を基に、Journal of Asian Architecture of Building Engineering に論文を投稿し、採用となった。目標達成度 : 75%</p> <p>2. 都市の換気・通風 WG : 都市の換気・通風に関する勉強会を定期的に行うことによって、既往の研究事例を調査し、現在行われている都市の風通しの評価手法を整理するとともに、新たな解析を実施し、知見を深めた。目標達成度 : 75%</p> <p>3. 原子力発電所からの放射性物質の拡散 (当初計画には無し) : 放射性物質の拡散が屋外空気環境に及ぼす影響やその予測手法について、数回の勉強会を実施し、得られた知見や今後の課題を整理した。また独自の数値解析を実施し、その成果を、2回の空気シンポジウムで発表した。目標達成度 : 80%</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価 : 小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価 : 小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価 : 小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価 : 小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。